論　文 ニダバ (*Nidaba*) 39(2010), 126-135

日本語と中国語における「金銭」に関する諺対照比較研究 3

銭　清
浮田三郎

1　はじめに

一般に、言語表現から、その言語を使用する民族集団の文化の特色を見て取ることができる。特に、日常生活の中から生まれ、民衆の智恵の結晶として使われてきた諺は、各民族それぞれの伝統的な物の見方・考え方を濃厚に反映している。金銭に関しては、古来多くの諺、格言が伝えられている。これらの諺には、多年にわたる人々の生活の姿や考え方が示されており、金銭に関して多くのことが言われているのは、人々の生活と金銭との深い関わりを示すものにほかならない。また、金子は金銭の諺に関して、「人間が物質的、経済的な力から離れて生活できない限り、金の威力は実に大きい。金は物質的、経済的力の手形だからである。」(1983a, p. 203) と述べている。日中両言語には、そうした様々な「金銭」に関しての諺を見ることができる。

そこで、本稿では、「金銭」が使われている両国の諺に着目して、諺に見られる共通点と相違点を明らかにし、日本と中国の風俗、文化、民衆の考え方を考察する。

2　分析資料と方法

本研究の対象として取り扱うのは、日中両言語における「金銭」に関する諺である。また、本稿で言う金銭をめぐる人間関係は「男女関係、親子関係、友人と親戚関係」とする。

日本の諺の用例は『故事俗信諺大辞典』(小学館　1982) を資料母体とした。一方、中国の諺は、『中国諺語大全』(温 2004) と『諺語大典』(張 2004) の資料を中心に、諺の用例を取り出した。『中国諺語大全』は、約 100,000 項目の諺を収録している。古今の文学作品からの用例や古代文献及び方言からの引用もあり、内容的にも、詳しい例文を加え、難解の語彙についても解釈が付いている。また『諺語大典』は、内容としては、46 テーマ、308 項目に細かく分類され、中国語の諺への理解もいっそう深まるように作られている。

考察方法としては、上述の諺辞典から「金銭」に関する諺を取り上げそれぞれの諺の意味内容と表現を対照比較する。両国の諺を対照しやすくするために、日本語の諺には「J」、中国の諺には「C」という符号をつけ、筆者の直訳を付す。

3　男と女

3-1　金と色事

男女の関係、色事には金がついて回るのは日本でも中国でも同じであろう。

（日）J1. 愛想づかしも金から起こる

J2. 金の切れ目が縁の切れ目

J3. 傾城の涙で庫の屋根が漏れ

J4. 傾城の恋は、金持ってこいのこい

J5. 男を尻に敷金女房

J6. 郭の金には詰まるが習い

J7. 色事に銭のいらぬことなし

J8. 色欲の二つの穴は銭金を以って埋められぬ

J9. 遊里に恋なし、金をもって恋とす

J10. 六十六部で前がかねじゃ

J11. 金と女は外へ預けるな

J12. 銭金囲っても姫かこうな

（中）C1. 千金难买美人笑

たとえ千金でも美人の笑顔が買えない

C2. 爱钱的不爱人 爱人的不爱钱

金が好きな人は人を愛せず、人が好きな人は金を愛せず

女が男から離れて行ってしまう主な原因は、上に見るように、お金がからむ場合である。その中でも特に多いのは、男の金まわりが悪くなった場合であると考えられる。 J2 は金の威力の裏を言ったものの一つである。こちらに金があり、相手を潤すことができる間は、相手にちやほやさせられるけれども、いったん金がなくなると、そっぽを向かれ、相手にされなくなる。これは世の中の一般の場合においても真実であるが、この諺は遊里などでの男女の関係から生まれて来たもののようである。金のある間、遊客は遊女にもてるけれども、遊客にすげなく冷たくなる原因は、金銭が絡む場合が多い、そうした世界での通例であったからである。J3、J6、J7、J8 からわかるように、色事には、常に費用がかかる、人間の持つ色情と利欲への欲望はどれだけの金を使っても満足させることができない。遊里で遊びに使う金は底なしなので、家や財産を失う恐れもある。J4 の「恋」は「来い」を掛けた語である。遊女の恋は真実の恋ではなく、金で売る恋であることを表している。J5 の「敷金」は、婚姻の際の持参金。「尻に敷く」と「敷金」がかけられている。持参金付きの女房は亭主を尻に敷くものだの意である。J10 の六十六部は、回国巡礼の一つ、六十六部の法華経を書写し、全国六十六ヵ所の霊場をめぐって奉納する。六十六部の巡礼が帯の前に鉦をつけているところから「前が金」にかけて、売春で金を得る女を言ったしゃれである。

これらの諺にざっと目を通しただけでも、日本のそれには明らかに、遊女に関するものが多く現れる。内容的には、色事を遠ざけるような戒めであることや、遊郭には本当の恋はないという警告などが主なものである。たとえ恋があるにしても、お金をぬきにしては成り立たない。そういう側面が目立つのである。

それに対し、中国の諺にも、日本の諺と同様に色事に金をかかることが見られる。C1 のように、千金ほどかけても美人の笑顔も買えない。またストレートに本当の恋と金を目的で売る恋の違いを教えてくれている（C2)。ここで、特に注目したいことは、中国の諺はそもそも男女の色事に関する諺の数が少ない上に、遊女に関する諺となると、ごくわずかしかない。その差異は、果たして、何に起因するのであろうか。李（1982, p. 94）は、「儒教の元で作られた夫婦関係は、互い賓客のように尊敬しあうものであるとしている。その目的は、しゅうとめの嫉妬を減らすと同時に、夫の姉妹との間にある衝突を和らげることにより、大家族制度を固めることにある。その結果、自分の好きな人に対する情愛は口に出すどころか、表すことさえも嫌がるようになった。」と述べている。売春制度が中国の社会においても存在していたことは言うまでもないが、儒教の礼法に拘るため、議論する人も少ない。それと平行して、遊女に関する中国の諺が日本の諺ほど多くはないことも理解できるであろう。

3-2　金と愛情

愛情というのは、確かに金で買えないものだが、お金は男女の付き合いには、大きな役割を果たしているということも否定できない。

（日）J13. 一押二金三男

J14. 一押二金三姿四程五芸

J15. 一暇二金三男

J16. 一程二金三器量

J17. 一見栄二男前三金四芸五声六おぼこ七台詞八力九胆十評判

以上の諺のように、目指す女を手に入れる第一条件としては、押しの強さか暇か程か、人によって、意見が違うが、お金はずっと二位か三位となっている。現実の中に、男と女が出かける際、喫茶店でデートするにせよ、映画を見に行くにせよ、男女の付き合いにはいずれも多少の費用がかかるのは事実である。これらの諺は、むしろ女にもてる条件を男性に教示しているといってよいのではなかろうか。

3-3　金のない男

女性にとって、いかなる男性が理想なのであろうか。

（日）J18. うるだく男は金にならない

J19. 急く男は金にならぬ

J20. 銭なき男は帆なき舟の如し

J21. 金に惚れても男に惚れな

（中）C3. 男子无钱走错行、女子无钱嫁错郎

男子金がなければ違う業界に入る　女子金がなければ違う男に嫁ぐ

日本の諺では、まず、あわてる男を相手にしないほうがいいと諺は教えてくれている（J18、J19）。なぜならば、あまり急ぐと、物事を細かく考えず、失敗を招きやすいからである。J20 は、比喩的に財力のない男は帆を失った舟が思うように航行できずにただ流れに漂っているのと同じで、思った通りに行動することもできず、その場の状況に流されるままであることを示している。結局、J21 のように、「金に惚れても男に惚れな」ということなのである。要するに、あわてる者や金のない男は、女にとって、それほど好かれる存在ではないということが言える。一方、中国の諺 C3 には、対句表現で金のない男は誤った仕事についてしまうという悪結果を示している。

3-4　結婚の条件

さて、結婚のこととなると、中国の諺は、妻や夫を選ぶ基準が金ではなく、勤労にあるとしている。

（中）C4. 娶妻不要穿金戴银、只要见事生勤

妻をめとるには、財富などを重視してはいけない、まず勤労の人を選ぶ

C5. 择婿不择富贵、 娶女不娶妆柜

夫を選ぶ時と妻を選ぶ時、富貴の家の人を選ばない

C4 の「穿金戴银」と C5 の「妆柜」は金品や家柄などをさしている。つまり、結婚するには、財富を最高の条件としてはいけないと言い、人間の価値は金銭ではないことを表している。この考え方は日本の諺には見られなかった。

4　金と親子

4-1　子供の養育

次に、子供の養育にはどんなに金がかかるかを見て見よう。

（日）J22. 娘多きは貧乏神の宿

J23. 娘出世に親貧乏

J24. 娘 3 人持てば身代潰す

J25. 娘一人に七蔵あけた

J26. 総領の子の十五が貧乏の峠

J27. 総領の十五は貧乏の世盛り

（中）C6. 有儿贫不久、无子富不长

息子がいればまもなく貧乏から抜け出す、息子がいなければ金があっても長く続かない

C7. 有女不为孤、有儿不算穷

娘がいれば孤独にならない、息子がいれば貧乏とは言えない

C8. 有钱无子不算富、有子无钱不算穷

金があっても子がいなければ富裕というほどではない、子がいれば金がなくても貧乏というほどではない

C9. 养女是个赔钱货

娘を育てることは損をすること

J22 と J24 は、女子を育て、嫁入りさせるのには非常に大きな費用がかかることをいうものである。やがて J23、J25 のように、娘が裕福になっても、結局親が貧乏になるということも有り得る。それはなぜかというと、娘にできるだけよい縁組をさせようと、親が支度や付き合いに大きな費用をかけたからである。一方、男の養育にはどうであろうか。J26、J27 のように、長男が一人前に稼げるようになる寸前が、すなわち十五歳に近づくに従って家計は苦しくなり、家計の一番苦しい時期である。しかし、十五歳を過ぎると次第に楽になっていくことを示している。日本の諺では、もっぱら娘の養育には金がかかることが表現されている。

一方、中国の諺では、対句表現の妙により、息子と娘の比較が見られる。息子は、働きによりやがては、貧乏からも抜け出すことができるようになると表現し、C7 では娘の有難さを示している。C8 では、子供は家にとって大切なものとして表現されている。ただ、C9 では、日本の諺と同様に娘の養育には金がかかると表現している。

これらの諺から見るように、われわれの身の回りにも、その内容に相当することが数多くあるのではなかろうか。たとえば、女の子が生まれるより男の子が生まれることを人々は喜ぶ。その原因はどこにあるのか、中国、日本のような伝統的農業社会では、主な生産者は農民である。このような社会構造の中に、自然に「男尊女卑」の考え方が現れたのである。これについて、呂（1976, p. 29）は「農業の経営においては、重要な仕事のほとんどを男性の方が担当していることによって、家族の財産権も男性の手に握られるようになった。婦人の労働力が十分に意味を持ちえなかったので、経済力もなくなった。このような農業生活のもとで、『男尊女卑』という考え方が生じたのも当然なことであろう。なぜなら、経済面においては、女性は独立できず、夫に頼ってゆかなければならないからである。儒家が一方的に女性の服従を説いたのも、実は生活条件によるものである。家族の協同を維持するためであり、わざと女性を軽べつするわけではない。根本的な理由は男性の女性に対する性の差別感に起因していると思われる。女性を所有物だとみなしていたこと、そして、また、買う側がそれを単なる性的対象ないし物としてみなしていたことなどが挙げられる。」と述べている。

4-2　金銭では買われぬ親子関係

「親子は一世」と言われるように、親子の関係は絶対的である。

（日）J28. 親と子供は銭金で買われぬ

（中）C10. 有钱难买亲生儿

金があっても実の子は買えぬ

C11. 黄金千两难买一个亲儿子

たとえ黄金千両でも実の子は買えない

以上の如く、日中同様な考え方で、いずれも親と子の関係は金銭で売買できるようなものではなく、利害を越えて金銭では買われぬような貴重なものであることを強調している。

4-3　銭金は親子でも他人

親子の関係は、本当に利害を越えたものなのであろうか。親の立場としては、老後は子を頼りにしたいのが当然である。そのため、中国では、「积谷防饥、养儿防老」（穀物は飢饉に備えて貯えられ、息子は老後に備えて育てられる）という諺もあり、子供についてはある程度、一種の養老保険としての考え方をもっている。

しかし、息子は本当に親の思うように老後の頼りになりえるか。そうでない場合もしばしばある。

（日）J29. 銭金は親子でも他人

（中）C12. 父子虽亲、财心各别

親子の間は親しい関係でも、金と関わると別となる

C13. 千子万子、不如身边银子

子は千人、万人を持っても、むしろ手元の金

C14. 亲生子、不如腰包子

実の子は財布の中の金に及ばない

以上の諺は、日中よく似ており、銭金のことは親子の間柄でも他人のように水臭くなるということを述べている。どんなに親しい関係でも、金銭上のことははっきりとけじめをつけなければならないことを強調している。筆者なりの考えでは、「親稼ぎ、子長者、三代目は乞食」という日本の諺通り、たくさんの財産を子孫に残し、かゆいところに手が届くように子孫の世話をするのはよくないのである。なぜならば、子孫は親の苦労を知らないため、逆に、それがあだになるからである。中国の諺にも「子孙自有子孙福」というものがある。つまり、子孫の幸せは自分の手で作るため、それほど心配しなくてもよいのである。

5　友人と親戚

5-1　金銭の貸し借り

親子に関する金銭の諺は既に見て来た。次は「友人、親戚」に関わる諺を見てみよう。

（日）J30. 金の貸し借りは不和の元

J31. 口の物を食い合う仲でも、質を取らねば金貸さず

（中）C15. 亲是亲、财帛分

親しさは親しさ、銭金は別

C16. 亲戚不共财、共财断往来

親戚でも銭金のけじめなくすな、けじめなければ往き来が絶える

C17. 亲戚明算账、父子财钱清

親戚の間銭勘定をきちんとして　親子の間銭はっきりさせる

C18. 亲家交礼不交财

姑同士の間、礼を交換するが、銭金に関わらない

C19. 亲兄弟、明算账

銭勘定をきちんととして、よい兄弟

C20. 铜钱银子断亲眷、坏朋友

金銭問題にかかわると、親戚の交わりを断つ、友達関係を壊す

C21. 朋友别谈钱、谈钱伤感情

友達の間金銭の話題をするな、したら友情を傷つける

C22. 若要亲戚断、三分银子缠一缠

親戚の交わりを断ちたいなら、三分の金でも問題を起こす

全体から言うと、「友人、親戚」に関する金銭関係の諺には、日中両国のいずれも、貸し借りの問題に非常に大きな比重をおいていることを示している。ただし、これに関して、日本の 2 例と比べると、中国の諺の数が多い。また「親戚」、「朋友」という言葉がそのまま諺に用いられている。それに対して、日本の諺には、そのような諺は見受けられない。J31 では「口の物を食い合う仲」という表現で親しい間柄を表している。

J30、J31 は、金銭の貸し借りはどんなに親しい間柄であろうと、しばしば不和の原因となることを表現している。貸したほうは、大事な金を失うまいと、なんとしてでも取り戻そうとするだろう。一方、借りたほうは、どうせ苦しいのだから、何とかして取られまいとするだろう。そこに争いが起き、恨みが生まれ、それまで親しかった間にも、不和を招くことにもなる。両語の諺とも、たとえ親しい仲でも、金の貸借はするものではないという結論が出てくる。以上のように、いくら親しい間柄であっても、金銭の貸し借りは不和の元となることを教えてくれる。

5-2　借金

金銭の貸し借りということは、誰にでも起こりうる。したがって、紛争を最小の程度まで減らすには、まず、次のような心の準備をした方がいいと言っている。

（日）J32. 借りるときの地蔵顔、返す時の閻魔面

J33. 朝起き悪い者に金貸すな

J34. 貸した物が忘れぬが借りたものが忘れる

J35. 貸物覚えの借物忘れ

（中）C23. 借钱不要还、朋友好千年

金を貸して返済を求めないなら、友達関係は千年以上続く

C24. 世上若要人情好、 赊去钱物不要讨

世の中に人間関係をうまくいかせるなら、貸した金や物を求めるな

以上の日中の諺のように、貸した者は、そのままにしておけば損をするから忘れないが、借りた者は、そのまま忘れることがよくある。故意にするわけではないが、自然にそうなるのは、いわゆる潜在意識によるものなのであろうか。このように、物によっては、貸したら最後、なかなか返して貰えないことがあると表現している。

以上が貸すほうに対する諺の教えであるが、金を貸す者と借りる者との間では、もちろん、借りるほうが弱い立場に立つのが普通である。貸してくれた者に対しては、頭はあがらないし、返せないでいる場合には顔向けもできない。

次に、借りる方の姿を見てみよう。

（日）J36. 借りのある門では雨が横に降る

J37. かたきの前より借金の前

J38. 金を借るは憂いを借る

J39. 借金は苦の種

J40. 痔と借金のない陰間なし

J41. 世の中に怖いものは屋根の漏るのと馬鹿と借金

（中）C25. 冷怕起风、穷怕借债

寒い時に風が吹くと、寒さが一層つのる。貧乏で借金をすると、貧窮が一層つのる

C26. 人怕老、债怕讨

人は老いを恐れる、債は取り立てを恐れる

C27. 借债容易还债难

借金することは簡単だが返金することは難しい

C28. 好借债、穷得快

よく借金する人は貧乏人になりやすい

C29. 还债容易还情难

金を返すのは容易だが人情を返すのは難しい

C30. 父债子还、父业子得

親父の事業は息子に継承され、親父の債は息子が返済する

J36 は借金のある家の門前を通る時は、まるで雨が横から降るように、顔を隠して通らなければならなくような後ろめたさを暗示し、C25、C26、C27 の表現でも、借金することが難しく、取り立てを恐れ、顔を隠すことにつながりそうである。J37 では、命を取られるより

も借金をしている人の方がこわいと表現している。J38は、金を借りるとその金を容易に返済することができず、心配事を借りたのと同じようなことになり、色々な苦労をしなければならなくなると言っている。C29でも、心苦しいことになることを示唆している。J40の「陰間」は、男色を売る少年、男娼のことであり、皆痔と借金に苦しんでいると表現し、「痔と借金」という面白い取り合わせで批評している。J41では、こわいのは「古屋の雨もり」と「何をするか見当もつかぬ愚か者」と「雪だるま式に利息が増える借金」であると述べている。漸層法的な表現を用い借金の怖さを表現している。このように、日本語には、面白い比喩表現を使って借金をすると金に束縛され、債権者の奴隷になり、金を借りることは憂いを借りると同じく、苦労の種になるなどと借金の怖さを強調している諺が多く見られるのに対し、中国の諺は対句による対照的表現を多く用いることによって、面白さを出している。

以上、両語の諺では、お金は人間の信頼関係を壊す力も持っている、金を貸したり借りたりすると、その結果、せっかく今まで親しかった仲が、かえって不和になることもあると言っている。

とにかく結果は不和という、まずいことになりがちである。こういうことは、日本でも中国でも同様によく起っていたことを諺は物語ってくれる。

6　終わりに

以上、日本語と中国語の「金銭」に関する諺の内容を対照比較し、そこに見られる日本人と中国人の「金銭」に対する考え方の類似点と相違点を明らかにすることを試みた。

6-1　「類似点」

①金と色事については、日中ともに色事には常に金がかかることが見られる。

②親子関係と金銭に関しては、両国とも、娘の養育には金がかかるという考え方が見られる。親子関係は金銭で買われないような貴重なものであると認識している。また、銭金のことは、親子の間柄でも他人同士と同様、どんなに親しい関係でも、金銭上のことははっきりとけじめをつけなければならないことを表している。

③友人、親戚に関する金銭の諺には、日中両国ともお金は人間の信頼関係を壊す力を持っている、金を貸したり借りたりすると、その結果、せっかく今まで親しかった仲が、かえって不和になることもあると教えている。

6-2　「相違点」

①男女関係と金に関しては、日本の場合は、遊女に関するものが多いが、内容的には、色事を遠ざけるような戒めであることや、遊郭には本当の恋はないという警告などが主なものである。たとえ恋があるにしても、お金をぬきにしては成り立たない。そういう側面が目立つのである。中国の場合はそのような諺は稀にしかなく、対句形式で本当の恋と金を目的で売る恋の違いを対照的に教えてくれている。

②日本では、女性にとって、金のない男は相手にしないという考え方が多く見られるのに対し、男性の角度から見た金のない女性に関する諺は一つもないようである。また、日本の諺では、金のない男の性格を述べるのに対して、中国の諺では対句形式で金のない男は誤った仕事についてしまうという悪結果になることを表現している。また、中国の諺では、結婚の条件は必ずしも金ではないと表現している。

③友人、親戚に関する金銭関係の諺には、日本の諺はストレートに「金の貸し借りは不和の元」と表現しているのに対して、中国の諺の場合、数も多く、いくら親しい親戚、友人の間柄であっても、金銭関係できちんとしないといけないということを述べている。また「親戚」、「朋友」という言葉がそのまま多くの諺に用いられている。それに対して、日本の諺には、見られなかった。

④表現については、日本語には、面白い取り合わせの比喩表現を強調している諺が多く見られるのに対し、中国の諺は対照的表現を多く用いることによって、面白さを出している。

参考文献

浮田三郎（1987）「日本語とビルマ語の諺対照比較研究（2）－日本語・日本文化の教材基礎－」『広島大学教育学部紀要』第2部　第36号　広島大学教育学 pp. 301-312

浮田三郎（1988）「日本語と現代ギリシア語（方言）の諺対照比較研究―諺に見られる素材を中心に－」『言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究』広島大学教育学部 pp. 59-64

浮田三郎　(2002)「日本語と現代ギリシア語における「友」に関する諺対照比較」　『言語学論集』溪水社　pp. 121－135

浮田三郎　(2005)「現代ギリシア語と日本語における金持ちと貧乏に関する諺の対照研究」『プロピレア』第17号　日本ギリシア語ギリシア文学会　pp. 3－12

温 端政　(2004)『中国諺語大全』上海辞書出版社

金子武雄　(1983)『日本のことわざ　評論』　海燕書房

黄　欣　(2001)「日本人と中国人の世間観－諺に見られる言語表現からの検証と考察」『多元文化』名古屋大学国際言語文化研究科国際多元文化専攻編 pp. 53－65

尚学図書　(1982)『故事俗信諺大辞典』小学館

張 一鵬　(2004)『諺語大典』漢語大辞典出版社

呂 青華　(1976)「日中両国における諺の比較研究：金銭関係を中心に」東呉大学日本研究所修士論文

李 树青　(1982)『蜕变中的中国社会』 里仁书局